

寂上物語

二義





定物後老一

同錄

一字了口合我一事

一葉稿其十亦勇力

或亦何長子字略一

叶

葉稿其十亦討死

K289
Mo
2



定之 物河老

定之 物河老

五福に 荒年 年々 一斗 九斗 一斗 光陰 日

宝珠 四休 一斗 一斗 一斗 一斗 一斗 一斗

一斗 一斗 一斗 一斗 一斗 一斗 一斗 一斗

山氣 斗 斗 斗 斗 斗 斗 斗 斗

光陰 斗 斗 斗 斗 斗 斗 斗 斗

平ひつゝ〜〜〜いふ所も〜〜
〜〜〜指し示す〜〜
〜〜〜後世に〜
〜〜〜音に〜
〜〜〜人か〜
〜〜〜北王北地中〜
〜〜〜一〜
〜〜〜北水ひら〜

〜〜〜お〜
〜〜〜首の〜
〜〜〜し南を〜
〜〜〜ちりか〜
〜〜〜と〜
〜〜〜切〜
〜〜〜折〜
〜〜〜昔〜

予は先皇御代に於ては此の御代に於て
下は上なるに似たり行はざるに似たり
金は上なるに似たり押はざるに似たり
能く是なるに似たり操るに似たり
此は上なるに似たり年入るに似たり
押入るに似たり是なるに似たり
是なるに似たり押入るに似たり
此は上なるに似たり是なるに似たり

予は先皇御代に於ては此の御代に於て
下は上なるに似たり行はざるに似たり
金は上なるに似たり押はざるに似たり
能く是なるに似たり操るに似たり
此は上なるに似たり年入るに似たり
押入るに似たり是なるに似たり
是なるに似たり押入るに似たり
此は上なるに似たり是なるに似たり

業橋高千穂宮力事

かゝる如く大將出陣橋高千穂八丈余
り一軍は上なるに似たり是なるに似たり
此は上なるに似たり是なるに似たり

あつとあらんかたに并るしり夫を
にち人すにりしりし人たのり
るお計すしりしりしりしりしり
しりしりしりしりしりしりしり
ざらしりしりしりしりしりしり
あつとあらんかたに并るしり夫を
勝たのしりしりしりしりしり
叶しりしりしりしりしりしり

あつとあらんかたに并るしり夫を
にち人すにりしりしりしりしり
るお計すしりしりしりしりしり
しりしりしりしりしりしりしり
ざらしりしりしりしりしりしり
あつとあらんかたに并るしり夫を
勝たのしりしりしりしりしり
叶しりしりしりしりしりしり

可下... 福... 人... 兼... 其... 也
取... 一... 一... 一... 一... 一...
中... 一... 一... 一... 一... 一...
何... 一... 一... 一... 一... 一...
舟... 一... 一... 一... 一... 一...
後... 一... 一... 一... 一... 一...
高... 一... 一... 一... 一... 一...
體... 一... 一... 一... 一... 一...

進... 一... 一... 一... 一... 一...
舟... 一... 一... 一... 一... 一...
か... 一... 一... 一... 一... 一...
ま... 一... 一... 一... 一... 一...
ま... 一... 一... 一... 一... 一...
一... 一... 一... 一... 一... 一...
舟... 一... 一... 一... 一... 一...
本... 一... 一... 一... 一... 一...

一川源をたぐりて川と面と在りて辛
記すりて人知とまじき長崎の面とを
并に川原に舞ひつりて馬七カ
場とありて語とあり。あまの川とあり
ゆへに中流に流るる川とありて
河の縁に川水とありて昔の川とあり
て川とありて川とありて川とあり
て川とありて川とありて川とあり

あまの川源をたぐりて川と面と在りて辛
記すりて人知とまじき長崎の面とを
并に川原に舞ひつりて馬七カ
場とありて語とあり。あまの川とあり
ゆへに中流に流るる川とありて
河の縁に川水とありて昔の川とあり
て川とありて川とありて川とあり
て川とありて川とありて川とあり

事したるをわがまゝにせしむるに
しりしに初十布に浮いた馬高也
大善のげに高野名をよみ兼て
るが北川にあらざるに
りよふやあふよふに
後初十布がふゆふ一布に
し白染二布にとりて
大にふりよふに

西本川を御し初十布に
高野の浮いた馬高也
大善のげに高野名をよみ兼て
るが北川にあらざるに
りよふやあふよふに
後初十布がふゆふ一布に
し白染二布にとりて
大にふりよふに

氏家伊良子軍器
兼 兼徳初十布討死事

此の如くは五七の池のうらまへを
ちとてあつと作し行ふに川を打
傳ふとていふにけしむの文は二年
一にけしむの文はけしむの文は
川にけしむの文はけしむの文は
けしむの文はけしむの文は
けしむの文はけしむの文は
けしむの文はけしむの文は

うらまへを五七の池のうらまへを
ちとてあつと作し行ふに川を打
傳ふとていふにけしむの文は二年
一にけしむの文はけしむの文は
川にけしむの文はけしむの文は
けしむの文はけしむの文は
けしむの文はけしむの文は
けしむの文はけしむの文は

しとさるるに對しなはるはとて
或來を對するはとて
先づに對するはとて
しとさるるに對しなはるはとて
或來を對するはとて
先づに對するはとて
しとさるるに對しなはるはとて
或來を對するはとて
先づに對するはとて

席中を對するに落どし
或來を對するはとて
先づに對するはとて
しとさるるに對しなはるはとて
或來を對するはとて
先づに對するはとて
しとさるるに對しなはるはとて
或來を對するはとて
先づに對するはとて
しとさるるに對しなはるはとて

文に見えしけりてん九八出のち我老
 しりたれ士にこ信好を信紀別と
 しりてのちてんこしりてのちしりてのち
 しりてのちしりてのちしりてのちしりてのち
 か少性之故念今人か少陽しりてのち
 にしりてのちしりてのちしりてのちしりてのち
 少性免しりてのちしりてのちしりてのち
 極んしりてのちしりてのちしりてのちしりてのち
 記
 全

室ころりとも業爲の自余にありて討
 き果れ其の道しりてのちしりてのちしりてのち
 がしりてのちしりてのちしりてのちしりてのち
 昔の木車にしりてのちしりてのちしりてのちしりてのち
 交しりてのちしりてのちしりてのちしりてのちしりてのち
 記んと侍りてのちしりてのちしりてのちしりてのちしりてのち
 馬しりてのちしりてのちしりてのちしりてのちしりてのち
 念しりてのちしりてのちしりてのちしりてのちしりてのち

おのれの世なりしに
一室にのほのほと坐す
まじりて一室をなす
かく大なる事なりしに
此後いふ事なりしに
いふ事なりしに
いふ事なりしに
いふ事なりしに
いふ事なりしに
いふ事なりしに
いふ事なりしに

東大権に玉りしに
いふ事なりしに
いふ事なりしに
いふ事なりしに
いふ事なりしに
いふ事なりしに
いふ事なりしに
いふ事なりしに
いふ事なりしに
いふ事なりしに

一説に舟中義光の
光法の内室に
牛捕りて死に
いふ事なりしに
いふ事なりしに
いふ事なりしに
いふ事なりしに

ついでに物傳と云われぬものも
こゝろに在る実事ヤ多クヤ
弟之令れ婦子修理等ノ事
かゝく故にたる光景の事と
弟之令れ婦と云ふこと
しよまゝに自害したる事
世に傳へたる事
世に傳へたる事

一説に業徳甚多し計此の後に
弟之令れ婦と云ふ事
に紀載するにヤ事ハ彼事
宇に在れ人ヤと云傳
の事ハ事ハ事ハ事ハ事
弟に傳へる事ハ事ハ事
に事ハ事ハ事ハ事ハ事
ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事
ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

66104

定之御領巻

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~





山形県立図書館



1-0324857-9